

「日本外交の構想力」を考える(1)

—茂木敏充外務副大臣をお迎えして—

開倫塾

塾長 林 明夫

林：お早うございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝の開倫塾の時間は、衆議院議員であられ、また、外務副大臣をお務めの茂木敏充先生をお招きしてお送りいたします。先生、よろしくお願ひします。

茂：こちらこそよろしくお願ひします。

林：いよいよ、今日は自民党の総裁選がありますけれども、先生、どんな様子かお聞かせ頂きたいのですが。

茂：ちょうど今日の午後2時から自民党総裁選の投開票が行われるんですよ。ご存知の通り、現職の小泉さん、それから、亀井さん、藤井さん、高村さん3人が挑戦して、4人による争いということで。選挙ですから、結果は解りませんが、大方の予測では小泉さんが強いのではないかと。1回目の投票で決まらなければ、2時間くらい時間を空けて4時半過ぎから、1位と2位による決選投票も予定されているのですけれど、場合によっては1回目で小泉さんが過半数を党員票でも、議員票でもとってしまうのではないかという勢いがあるように思います。

林：随分いろいろな議論をこの総裁選を通じて国民は知ることができ有り難かったのですが、小泉内閣の特色というのは、外務副大臣を務められてどんな感じだったのでしょうか。

茂：今回の総裁選もそうなのですが、やはり、マスコミを通じて、もう少ししっかりした経済、外交、社会福祉などの政策議論が欲しかったのですが、どうしても「小泉対反小泉」とか「改革勢力対抵抗勢力」という図柄だけが強調されてしまった。そのことは少し残念でした。今、高齢化社会を迎える中で日本の医療費も30兆円に膨れ上がっているんですね。これが更に40兆、50兆に膨らんでいくという不安もあるわけですから、この30兆の中身をもう一回「こういう項目だったら削れる」と、洗い直す。例えば今、大病院の入院期間など、日本だけが他の国と比べると長いんですね。だいたい欧米諸国が平均2週間なのに対して、日本だけ3週間なんですね。これを欧米並にするとそれだけで1兆3千億円削れるんです。

林：随分助かりますね。

茂：それから、薬局が悪いと言うつもりは決してないんですが、薬価も同じですね。日本の薬の値段は少し高すぎると思います。この薬の値段、薬価基準を欧米並にしますと、これも1兆3千億円削れる。この2つだけでも3兆円近いお金になるわけでありまして、約1割になります。もう少しこういう医療の分野に関しても抜本的な改革の議論、これが本来は必要だったのではないかと私は思っています。

林：私は、東京の経済同友会のメンバーに入れて頂いて、政治委員会というところでマニフェストについて勉強させて頂いたのですが、先生はマニフェストについてはどのようにお考えですか。

茂：政権公約を出すというのは当然のことで、マニフェストというのはもともとイタリア語で「はっきりと約束をする」という意味です。これが特にイギリスの政権、労働党であったり保守党の政権公約ということでマニフェストという言葉が流行り出した訳ですけど、政党ですからマニフェストなり公約を作ることは重要なことです。イギリスなどを見ていると、現実的なものを作っていますね。やはり、自分たちが政権をとったらこれをきちんとやりますよ、というのを作っていますけれど、日本の場合は与野党の政権交代があまり起こっていませんから、与党は政権公約といっても当たり前のことになりがち、また逆に野党の方はなかなかできないことまで含めて少し人気取りなのではないかということで、マニフェストについては私は与野党ともにもう少し熟成が必要なのではないかと思っています。

林：そういうことで是非皆さんも、今日、自民党の総裁選挙がありますので関心を持って頂ければ有り難いと思います。続いて、先生がこの度お書きになりました「日本外交の構想力」という素晴らしい本についてご紹介戴けませんでしょうか。

茂：今月の初めに「日本外交の構想力」という本を書いたのですが、ちょうど7冊目の本になります。最初の本が「都会の不満、地方の不安」という本で、それ以降は経済の分野の本が多かったので、初めて外交の本を書いたということになります。ちょうど外務副大臣に就任して11ヶ月たちイラクのバグダット含め海外出張も8回重ねまして、出張に行く飛行機は、行きは交渉の準備があるのですが、帰りは12、13時間の時間がありますので、そういうところで書きためたものなどを1冊の本にしてみたのです。当面のイラクの問題、北朝鮮の問題、また、日米の同盟、更には国連改革の中で日本が常任理事国となってしっかりとした役割を果たすべきだといったことも書かさせて頂いています。徳間書店から出ておりますので、御興味を持たれた方は是非ご覧戴ければと思います。

林：HP を観させて頂きますとたくさんの文章が書かれていますけれど、飛行機の中でお書きになっていることが多いのですか。

茂：けっこう飛行機の中で書くことは多いですね。あとはやはり夜中の時間になってしまう。外交の仕事をやっておりますと、地球の裏側が昼間でこちらが夜というところがあって、3時間後に向こうの外務大臣と電話で話をするというようなときに空き時間ができるんですね。そういうときにメモを書きためたり、という形で書いていることが多いですね。

林：イラク問題のとき総合外交政策局というのですか、素晴らしいご活躍をされたことが詳しく書いてありましたけれど。

茂：3月の20日にイラク戦争始まった訳ですけど、その日の昼にオペレーションルームというのを立ち上げまして、外務省の10階にです。そこで毎朝7時から会議、それが終わると私は記者会見。こういう毎日で相当大変な状況であったと思っています。

林：そうですね。茂木副大臣ほど毎日記者会見なさった政府関係の幹部の方はいらっしゃらないとお聞きするのですけれど、大変だったでしょう。

茂：25回やりましたからね。記者会見もやればなれてきますので。

林：「日本外交の構想力」という本、是非お読み頂きたいのですが、「構想力」この大事さはどういうことでしょうか。

茂：官僚は一つ一つの政策を確実に進めていく、しかし、例えば今、国際社会も冷戦構造が崩れて10年が経って、その一方でテロの脅威であるとか大量破壊兵器の脅威など全く違った時代に来ているんですね。そうするとどういう方向性を持って日本の外交を進めていくか、これはまさに政治の責任なんです。そういう大枠を作るのが政治の仕事なんだと。これが構想力であって、その構想力に従って日米外交とか対中外交とか一つ一つ進めていくのが官僚の仕事であると思っています。

林：今日の開倫塾の時間は衆議院議員で外務副大臣をお務めの茂木敏充先生をお迎えしてお話を伺いました。来週も先生、是非よろしく願いいたします。

茂：よろしく願いいたします。